

佐保会兵庫県支部だより

第 25 号

佐保会兵庫県支部事務局

神戸市北区北五葉3-6-3
〒651-1131 TEL・FAX 078-592-1464



六甲山牧場

構造改革の波

田辺 富子 (S24理)

今夏は例年になく猛暑の日々が続き、総会当日も殊の外暑い日でした。それにもかかわらず全国各地から母校の総会にたくさんの方が集まってきました。会場は和やかな雰囲気になっていました。理事長様を初め、卒寿をお迎えになった先輩の方々との凛としたお姿に接し、よき伝統を肌で感じるとともに身の引き締まる思いが致しました。

昭和二十四年理科卒の出席者は五名でしたが、久しぶりに旧交を温めることができました。その時一番の話題は、構造改革の波が大学にも及び、創立百周年を迎えようとしている母校がどのような姿になるかということでした。(現文部科学大臣による遠山プランとして「大学の構造改革の指針」が示され、国立大学の再編統合、上位三十校への重点投資などが取り上げられています。)

私たちは、たまたま戦後の大改革の時代に在学して居り「大学昇格運動」が起った頃でした。当時は連合軍の占領下であり、一県一大学の方針で奈良は女高師と師範との合併昇格が打ちだされて居りました。私たちは国立女子大学への単独昇格に、全教官、生徒が一丸となって熱い思いで運動したのでした。

二十一世紀最初の総会に出席し、同じ学び舎で青春の日々を過ごした者の強い絆と縁を実感するとともに、IT革命や生命科学などの進展著しい時代の中で、母校が確かな存在感を示しながら大いなる発展を遂げますようお願い致しました。

平成13年度 佐保会兵庫県支部総会

平成13年6月3日(日)
神戸ポートピアホテル

梅雨入り前の爽やかに晴れた6月3日(日)第25回兵庫県支部総会は多数の支部会員と2名の新入会員の参加のもと例年通りポートピアホテルで開催されました。

物故者のご冥福を祈り、吉江副支部長の開会の言葉で始まりました。

支部長の浅野様より「青丹よし」の記念誌について各方面からの多大な反響についてと、この第一号につづく第2弾、第3弾の発行を期待したいというご挨拶がありました。

続いて支部長を議長に以下の議事は順調に進みました。

- ①新役員承認
- ②平成12年度事業報告
- ③平成12年度会計報告
- ④平成12年度会計監査報告
- ⑤平成13年度事業計画
- ⑥平成13年度会計予算

ここで会食となりましたが、今年度は「シャンソンのひととき」が企画され、針生様の張りのある声と語りでとても楽しいひとときを過ごし、最後にみんなで“オー・シャンゼリゼ”を歌いました。

その後順次、次の報告がありました。

- ①本部報告
- ②佐保短大報告
- ③大学婦人協会と新役員紹介
- ④佐保婦人学級報告
- ⑤「若草」報告
- ⑥「睦会」報告
- ⑦第25号「支部だより」編集委員紹介

最後に懐かしい校歌を合唱し閉会いたしました。



卒寿のお慶び

寺西とく様 (S7家)
石原むつゑ様 (S7文)

哀 悼

桜井 君代様	S13保	H12. 12. 29	没
勝山 静様	T12保	H13. 2. 21	没
米満 昌子様	S22文	H13. 2. 23	没
早川 路様	S4家	H13. 2. 26	没
大村 清子様	S13家	H13. 4. 30	没
松下 知子様	S19家	H13. 6. 23	没

平成14年度支部総会(予定)

- ・平成14年5月26日(日)
- ・神戸ポートピアホテル
和楽の間



平成13年度 新入会員 (地区順)

学 部	氏 名	住 所	就 職 先
文社情	大田恵美子	東灘区	あさひ銀行
文社情	藤本 愛	東灘区	田崎真珠
理 物	辻 瞳	東灘区	松下半導体エンジニアリング
理 化	岡田 雅美	東灘区	フジッコ
生環シス	池田 裕美	中央区	市立西宮東高校
生環食	橋本 聡子	兵庫区	但馬銀行
生環住	神戸 佳奈	北 区	
生環アパ	小野 有子	須磨区	ジャヴァ
生環住	富松 洋子	尼崎市	コンパス建築工房
生環健	武川 郁枝	尼崎市	ロック・フィールド
文欧米	中島 泉	西宮市	大和証券
生環アパ	富田 波	西宮市	
文日亜	渡邊 登紀	伊丹市	京大大学院進学
文教文	中野 愛子	川西市	
理 化	中川 幸	川辺郡	OREST (福井医大勤務)
文教文	森 玲子	加古川市	
文人関	木下美智子	三木市	
理 数	田畑 明子	西脇市	KMTセミコンダクター
文日亜	中村美奈子	加西市	万有製薬
文社情	大島 優美	姫路市	播州信用金庫
理 物	網本 梓	姫路市	中央出版
生還住	福井 晶子	姫路市	アーキテック
生還住	茂末亜由子	姫路市	パナホーム兵庫
文比歴	高橋 千種	三田市	住友生命保険
生環食	安藤 千華	氷上郡	県立柏原高校
理 生	田原佳寿美	養父郡	兵庫県内高校 (非)
生環文	佐々木友絵	養父郡	
博前人	谷口 悦子	灘 区	パナホーム兵庫
博前環	塩野裕貴子	中央区	神戸ファッション専門学校
博前語	堀 裕子	須磨区	兵庫県高校 (H.11文欧米卒)
博前物	佐藤 恭子	宝塚市	都市文化研究所
博前生	大西 美輪	加古郡	東京ビジネスサービス (H.11理生卒)

— シャンソンのひととき —

出演 針生 祐子 (S51理物)

本年度は例年と趣向を変え佐保会員の針生祐子様
のシャンソンを聞かせていただきました。針生さん
の歌声の中から滲み出る感情が、一堂に集まった
我々にさまざまな遠い昔を思い出させたり、これ
からの人生への前向きな目標とエネルギーを与
えてもらったような気がします。針生さんとシャ
ンソンについて編集者と針生さんの一問一答です。

★シャンソンとの出会いはいつ頃ですか

9年前、子育てが一段落してふと自分のことを
振り返ったとき「私の人生ってなに？」と、当時
家庭の中での自分の存在の重要性に気づかず社会
での評価のなさに不安を感じていました。そんな
とき“マイウエイ”という歌の歌詞で救われまし
た。たった3分の詞の中に込められた作者の思い
が私に生きる勇気を与えてくれました。

★シャンソンを歌うことは針生さんにとってどの ような効用がありますか

歌を通していろいろな方と出会え、色々なこと
を教わります。又、シャンソンは曲間で色々な話
をする機会があります。そのためにも本をよく読
むようになりました。自分自身の生き方を深く考
えるようになりました。

★シャンソンを歌っているとき何を大切に歌われ ていますか

わたしはつい歌に心を込めすぎるきらいがあり、
押しつけがましくなりがちなので、あくまでも私
は歌の伝え手であることを肝に銘じています。又、
ライブは歌う者と聞く者との目に見えぬ掛け合
いだと思っています。同じ時間、同じ空間を共有す
る者同士ほんの1時間足らずでも、この出会いを
よきものとなることを願って歌っています。

★目標は？

今日ピアノ伴奏をしていただいた奥野武史先生
の指導の下、目標を高くもち、シャンソンコンク
ール全国大会で形あるものを残したい。そして
“なにかしらんけど、あの人の歌は心にすーと入
ってきて何ともいえずいいね。”といってもらえ
るような自然な歌が歌えるようになりたい。

まだまだお聞きしたいことがありますが、あ
の日、みんなで歌った“マイウエイ”を思いだし
ながら、今後の針生様のご活躍を祈念いたします。

若草だより



若草の活動報告と予定

- 平成13年 4月20日(金) 若草だより発行
- 6月3日(日) 第9回若草定例会
- 6月22日(金) フジッコ(株)鳴尾工場の見学
- 7月27日(金) 染色の会 (三菱重工工業の見学)
- 10月20日(土) 逢うたむパーティー
- 平成14年 2月20日(水) サロンコンサート (早春の会)

平成13年度若草運営委員

- (中央) 瀬川 順子 (078-361-1543)
- (兵庫) 藤井 勢子 (078-231-5334)
- (長田) 永田ひろみ (078-360-2368)
- (東灘) 角野 芳子 (078-452-4733)
- 松尾 薫 (078-851-2086)
- 大庭 栄利 (078-842-5850)

若草定例会より

支部総会に出席した約七十名の内二十名程が、会終了後隣室での第九回若草定例会に臨みました。議題は、昨年度の反省と本年度の活動内容に関するものでした。

昨年度の活動については、どの企画も好評で、参加者からは参加してよかったという感想と折角いい企画なのに参加者が少ないのが惜しいという意見などがありました。

本年度の活動内容と企画に関する説明があり、どのような企画にすればよいか等について、さまざまな視点での活発な意見が出されました。

若い世代の会員にとって魅力的な活動になるようにするにはどうすればよいか、企画への参加増員を図るためにはどうすればよいか、また、従来からの課題についてもさまざまな取り組みに関する案が出されました。とりわけ他のカルチャーでは得られない、若草ならではの魅力ある活動にしていくための企画はいかにあるべきかというところで話は盛り上がり、熱気あふれる応答が続きました。

大学時代同じように過ごしたというところで、人生観や価値観が似ており初めての出会いでもいい人間関係をつくりやすい。それが若草のいいところ。今後もこの触れ合いを大切にしたいものです。

染色の会

三菱重工工業を見学して

大山 一美

(日7文化 大山 小夜の母)

いつも、娘のところへ送られてくる佐保会だよりを楽しみにしています。皆さんが情熱と愛情を持って便りを作っておられるのがこちらに伝わってくるからです。毎月、色々な行事があり、その講師も卒業生の方がしておられ、充実しているなあと思いつながり冊子を読んでいます。ある日、最新号を読んでいると、ふと目がとまりました。そして「これに絶対参加したい！」と思いました。それは、亡くなった私の父が40年近く勤めていた三菱重工工業、神戸造船所の見学会の案内でした。

私が父の会社に行ったのは、確かたった1回。それも、私が小学生の頃で、父に肩車してもらい、大勢の人の間から見た進水式です。



(型染めのランチョンマット)



(墨流しのハンカチ)

父の事で思い出すのは、ヘルメットをかぶり、作業服を着て、広い工場を、自転車に乗って移動している姿です。

当日も同じような姿の人を何人も見、父の姿に重なりました。

父が勤めていた頃は、造船が主流でしたが、今の三菱は、造船だけではなく、仕事の内容も多方面にわたっているとの説明を伺い、時代を感じました。そして、暑い日差しの中、午前中、楽しみながら作った、型染めの暖簾を手に帰路につきました。

父の思いが一杯つまった三菱重工工業の見学会を企画して下さったお世話役の方、本当にありがとうございます。

サロンコンサートの案内

- とき 平成14年2月20日(水)
 - ところ セント・ジョージ・シヤパン
 - 会費 5千円(食事代を含む)
 - 申込 1月20日までに運営委員へ
- 詳しくは若草だよりを御覧下さい。

睦会だより

平成12年度第25回睦会は、昨年11月12日(日)、前年度と同じ阪急三宮西口から北へすぐの日本料理店「楽珍」四階で12時より開催された。

当日は最高齢の加藤咲子様(T15文)を始め39名の会員が出席され、一年間の物故者の方々への黙祷、浅野支部長のご挨拶から始められた。あとはほ、例年通り乾盃、会食と懇談、そしてアトラクションの即席合作句会、校歌斉唱等が和やかに進行し、同二時半すぎ33年卒業生の方にバトンを渡してお開きとなった。

分担合成の即席句は、いかにも睦会らしい「思い出はあしび花咲く春日山」空澄みて正倉院の紅葉かな」等の優雅な作品から「しぶ柿の奥山もみじぬれ落葉」萩の花馬肥ゆると

いう迷句まで出揃い笑いを誘った。

「睦会」は古い記録によれば、昭和五十年頃、今は亡き郷先生などを中心に親しい同窓生が集まって楽しい語らいのつどいを持ったのをきっかけとして、現在のように60歳以上の佐保会員で構成する幹事学年一年おくりの例会という形ができて連続と続いて来たものという。つまりは一生に一回幹事を勤めれば、あとは毎年楽しい期待がひとつ持てる訳なので、責任をおろした者の気楽さでいつまでも続いてほしいと願っている。

32年卒は卒業生23名のうち、実際に動けたのは12名ほどであるが一月八月十月の三回準備会を持ち、分担協力して運営に当たるとつれづれり親しくなり、32年会として今後も年に一度の交わりを重ねて行こうと約すところまで来たのも思わぬ収穫であった。

今後の睦会の持ち方として反省会で出て来たのは、会の長さは三時間ぐらいがよいのでは、ご夫妻での出席もご遠慮なくという線をはっきり出しては、スピーチ・提言報告等の全体的発言と親しい同士の自由な会話のかねあいのとり方は、等の宿題であった。

「睦会」は古い記録によれば、昭和五十年頃、今は亡き郷先生などを中心に親しい同窓生が集まって楽しい語らいのつどいを持ったのをきっかけとして、現在のように60歳以上の佐保会員で構成する幹事学年一年おくりの例会という形ができて連続と続いて来たものという。つまりは一生に一回幹事を勤めれば、あとは毎年楽しい期待がひとつ持てる訳なので、責任をおろした者の気楽さでいつまでも続いてほしいと願っている。

今後の睦会の持ち方として反省会で出て来たのは、会の長さは三時間ぐらいがよいのでは、ご夫妻での出席もご遠慮なくという線をはっきり出しては、スピーチ・提言報告等の全体的発言と親しい同士の自由な会話のかねあいのとり方は、等の宿題であった。

睦会平成十四年度当番
昭和34年卒業生

笹原 順子 (S32文史)

平成13年度 地区リーダー&もより会報告

(H13. 8. 20現在)

会員数	地区名	氏名	年次	最寄り会報告	会員数	地区名	氏名	年次	最寄り会報告
79	東灘区	小蒲 恵子 S49 理物 針生 祐子 S51 理物		4.28開催16名出席 (於ドンク岡本)	48	明石市	内匠 慶子 S18 保 寺田 翠 S37 文幼		未定
37	灘区	小島 敏子 S30 理物 寺尾喜美子 S33 家住		11月頃支部だより編集の 反省を兼ねて昼食会を予定 今秋開催予定	30	加古川市	田中 洋子 S44 家食 塩谷 迪代 S34 家食		秋に予定
27	中央区	右田 俊子 S52 理物			13	高砂市			
9	兵庫区	田中加代子 S47 文教			8	加古郡			
16	長田区	赤松 和子 S52 文教			13	三木市	森本 寿美 S49 理化		12.11.19 「三木道の駅」にて開催 本年は未定
49	北区	森田 絹子 S29 理数 小池 典子 S33 文英		14年3月頃食事を予定	7	加東郡			
46	須磨区	岡本 悦子 S37 家被 三輪 孝子 S49 理化		6.24垂水区と合同で 塩屋「うを仙」で開催	1	多可郡			
59	垂水区	下井 盈子 S33 文英 都筑久美子 S37 家被		6.24須磨区と合同で開催	3	西脇市	村田 好子 S39 家食		
47	西区	古山美智子 S40 理数 桑名 好恵 S50 家食		秋に開催予定	3	小野市			
44	尼崎市	鈴木 久子 S37 家食 藤岡 利子 S38 家被		7.1瀬江オルゴール館見学 「ゆず木」にて会食17名出席	0	加西市			
91	西宮市	永吉 和子 S34 理化 北川 清子 S40 家食		秋に開催予定	88	姫路市	笠井 康子 S40 文英		9月24日 姫路好古園にて開催予定
40	芦屋市	春田 君子 S26 家 光長紀美子 S34 理生		H12年度分4.14に実施 13年度は未定	6	相生市			
30	伊丹市	塚口 郁子 S35 家住 都築 映子 S37 家食		今秋10月か11月頃開催	5	赤穂市			
70	宝塚市	林 雅子 S33 文史 滝内久美子 S40 文教		11.24に開催予定	1	佐用郡			
42	川西市	川口登美子 S39 家食 石原 範子 S47 理物		4月に青山歴史文学館見学後 会食・懇親会(17名参加)	7	龍野市			
4	川辺郡				14	揖保郡			
					12	神崎郡	香山 昭子 S40 文英		
					5	飾磨郡			
					3	粟粟郡			
					13	但馬地区	米田 純子 S40 理動		
					14	三田市	河野 薫子 S41 理化 小林 嘉子 S37 家被		一寸珍しい物を食べに行 く昼食会を10月頃に予定
					4	篠山市	足立 瑞穂 S42 家食 廣内 保子 S44 理植		
					7	氷上郡	由井 弥生 S42 家被		開催は未定
					12	淡路地区			
					35	県外			

家族

山本よしみ (S23 家食)

最近、朝の連続ドラマを見るゆとりができ存分に楽しんでいる。四月から沖繩を舞台にした「ちゅらさん」が面白く、欠かさず見ることにしている。未来を見つめて夢に立ち向う若者達と彼等を支える家族の人間模様である。皆が持味を生かし、家族の役割を果している姿にひかれる。特におばあさんの立場が面白い。平良とみさんのうまさもあり、孫に尊敬していると云われる祖母の姿が光る。逃げることなく、甘えることなく家族の中にしっかり立場を確立している。高齢者の手本になる生き方と思う。家族のまとめ役として母親が、次男に「家族に相談しないで勝手なことをすると家族でない」と叱る。次男は了解を得るために沖繩に帰り出直す。また、姉と弟のお互いを思いやる温もりや働いたお金を送金し、「始めて家族のためになった」と賞められる長男、取り得がなさそうだがはじめをつける父親の姿など、薄れつ、ある家族のつながりを見ながら、我が国の家族の未来を考える。キャリアアウマンとして生きる女性映画監督の話「オードリー」や未婚の母として自立して子育てをしようとする「私の青空」など、多様化する女

性の生き方も納得できる。しかし個人の選択に任せ、流れるま、にしていいものだろうかと疑問が残るのである。

高度経済成長以後、社会が変化し核家族が増加するなど様々な家族形態がみられるようになった。青少年の問題行動が表面化する度に家庭教育や家族のあり方が浮び上る。パブル崩壊後は経済的な問題も重なり、思うことの多い現在である。社会の変化は少子化、高齢化と家族に大きな課題をつきつけてくる。女子差別撤廃条約を契機に男女平等意識が進出し、男女共同参画社会基本法も成立した。現実とはともかく社会の理想のあり方が描かれた。女性が一人の人間として生きることが肯定される社会である。しかし、外濠が出来れば個を生かすことと家庭は両立するだろうか。

社会の最小単位である家庭で個を生かしながら家族のつながりを大切にするにはどうすればよいか、個人の選択であると片付けていいものだろうか。選択するための基盤づくりをしながら、共に生きる力を培う任務を忘れてはならない。皆で課題解決に取り組みながら幸せな生活を築いて欲しいと願う。「ちゅらさん」を見ながら、忘れてはいけない家族のあり方を考えさせられたことである。

震災を記録する

中村 京子 (S32 理物)

「79人の20秒」のことで、といわれ、ほいほいと引き受けたものの、電話を切った後、後悔の念に見舞われました。火曜会というグループで作ったその冊子は、あの地震体験を8項目のアンケート形式で集め、まとめたもので、佐保会の方にもお世話になりました。

項目は、いつ目を覚ましたか、揺れをどう感じたか、揺れてどうなったか、それをどうしたか、当日困ったこと、その後気をつけていること、寝ていた部屋の家具移動の作図などです。79人はさまざまな状態にありましたが、激震地域のタンスなどは似た方向にすべて倒れていました(天井との隙間が無かったなど、倒れようのないものを除いて)。

火曜会は消費生活をバックアップする兵庫県立生活科学研究所でのグループです。私は結婚を期に、2年間勤めた大学の助手を辞め、その後はこどもの成長過程で出会

う問題と関わることに努めたつもりです。研究所はその延長線上にあり、地震前の数年はビデオ作品づくりを楽しみむなりました。

先の冊子は原稿の段階で、ある出版関係の方がNHKにFAX送信して下さり、震災1年目の番組で、冊子の中の3人が取り上げられました。冊子のPRや新聞への紹介は、冊子数に余裕が無いというところで辞退しました。3年後、NHK大阪のある方から防災ビデオ作りのサジェスションを頂き、冊子をもとに作品「忘れないで」とそのパンフレットをつくりました。手持ちの機器での収録であったり、正月間近の編集ということなどで、納得のいく出来ではなかったのですが、作品は私の知らない所で、120ページのパンフレットが200部も増版され、映写会がもたれるなど、思いがけないこともありました。

助けに飛び出した人、「助けてあげて」と走った人、冊子はその時に飛び出さなかった私を含むメンバーの免罪符とも感じています。

for the future
未来

五十五歳からの出発

永福より子 (S44・家住)

「人の一生なんて短いものです。

あなた達学生がいくら若いといつても、ながい人類の歴史から見ると、ここにあげた針の穴に私と一緒に入ってしまうくらいの長さなんですよ」と言う学生たちは「うーん」とさも感心したように頷きます。が、一瞬おいて「それはおかしい。青春まっただなかの私たちと先生が同じだなんて変です！」と気の利いた数人が反論してきます。かつての私がそうであったように、若い学生たちは自分に無限の時間、未来があるように錯覚をしています。しかし、「未来」という希望に満ちた言葉は若者だけの特権ではありません。

前置きが長くなりましたが、十五才の私が未来に希望を持ってこの度新しい仕事をスタートさせました。建築設計事務所「アトリエ21」の開設です。現在すでに神戸文化短期大学(専任として建築を教えています)と黒田建築設計事務所のかけもちをしています。何れも建築関連の仕事だからまあ何とかなるでしょうと、子供も亭主もいない独り身の気楽さから新しい事務所を始めました。

「アトリエ21」では学校やオフ

イスなどの大きな建物も設計しますが、住宅の改造といった環境整備も手がけていくつもりです。車椅子生活の母を介助しやすいようにと実家の便所を改造したところ、母はひとりでも用足しができるようになりました。予想外の改造効果で、10年以上も介護をしてきた兄嫁や家族の負担が大幅に軽減されたことはいまでも喜んでいます。母本人がなによりも喜んでいました。も

っと早く気がつけばよかったです。もう思いと同時に、環境を整備することで身体能力が生かされることを目の当たりにし、人と建築の関わり的重要性をあらためて認識しました。

また、夢をかたちにするのが建築家の仕事です。「アトリエ21」での目下の仕事は高校時代の同級生である女医さんが始めようとしているグループホーム(老人施設)の計画・設計です。クリアしなければならぬ問題が多く、実現できるかどうかまだ分かりませんが、若い頃のようにいらせらずに苦労を楽しんでいます。

マリーゴールド
(灘区の花)

ボランティア活動の中から

笹原 順子 (S32文史)

私が地域のボランティア組織にかかわりを持ったのは、停年後に赴任したドイツのインターナショナルスクールでの任期を終わりに、帰国して二年後の九九年夏以来のことです。

地震で潰れた自宅の処理をほった、灘区のボランティアが連合して借りたいので申請文を書いてほしい」と頼まれたのがきっかけです。文責を感じて市へのプレゼンテーションも引き受けるはめとなり、幸いに無償借用が実現しました。

さてそれから、ボランティア総会がかりで改装修復に精を出し、規約や組織を整え、「サポートステーション灘・つどいの家」と命名して、十指に余るグループの連合組織はその年十二月にスタートできたのです。それから翌年五月に第一回、本年五月に第二回の総会を経て今日に至っています。現在傘下のグループは20余を数え、本体会及び参加グループの活動が、ここを拠点として毎日展開されています。

開館以来各方面のご支援により各種助成金に支えられ館内の施設が整備され、優秀なスタッフが常駐して熱心に働いて下さり感謝しています。最近では地元の主婦層のみならず、卒論に、実習に、同好会にと学生達も出入りし、修学旅行の中学生や総合学習の小学生の可愛い姿も交じるようになってとても楽しみです。遠方から研修や見学のため訪れて下さるボランティアグループもあります。

二〇〇一年は日本の提案に基づく国連の「国際ボランティア年」に当たっていることもあってか、今年になって神戸市、兵庫県を網羅するボランティアのネットワークは急速に整えられつつあります。NPOの法人化も進む中で、自治体との協働のあり方がさかんに議論されるようになりました。

本年度、はからずも代表を委嘱され、運営の責任を負う事となりました。目下最大の問題は運営資金不足にあり、良い対策が求められています。今後もここに集う仲間たちがお互いに信頼と友情に結ばれ、一人ひとりが生きがいを感じ、輝いて下さるようにと念ずる日々です。それがボランティア活動の明日を拓き、住んでいてよかった、と思える地域を築く鍵となることでしょう。

青丹よし

21世紀への伝言



「青丹よし」の発行まで

編集委員 竹崎美佐保 (S18文)

平成十二年五月の佐保会兵庫支部総会に於て、西暦二〇〇〇年という節目の年に当り「二千年記念誌(仮称)」を発行する事が決まりました。

大正時代初頭に母校の同窓会として佐保会が出来、兵庫県支部も発足しましたが、以来今日迄一世紀近く経ちました。その間の支部の歩みを振り返ると共に、その時を生きた多くの同窓生の足跡を書き留め冊子に纏めたい、そして長く引き継がれた母校の伝統を次代に伝えたい、というのが記念誌発行の趣旨でした。

過去を単に懐しいものとせず、現在を確かめ更には未来を拓く力の源としよとの「温故知新」の思いを具現する意義ある企画として会員の賛同を得ました。

思えば、大正・昭和・平成と移った過去約一世紀は、丁度中に第二次大戦を含む未曾有の激動激変の年月でした。母校も女高師から女子大に大転換しましたが、中でも戦時下の昭和前半に女高師生だった方々は、学生時代に於ても卒業後の職場や家庭に於ても、今

からは想像も出来ぬ厳しく貴重な体験をされました。今やそのどなたもが高齢となり既に天寿を全うされた方も多くなっています。この方々の体験や考え方や行跡を自身の生の言葉で直接に記録して頂ける機会は限られて来ます。

そこで今回は、以後の女子大卒の方々の二十世紀については又の機会を期して頂くこととして、先ず女高師卒の方々の記録に絞りました。

平成十二年六月、編集委員十一名が初めて会合し県下の佐保会員のうち女高師卒の二百数十名に記念誌発行の趣旨を伝え、誌への寄稿を依頼しました。丁度七、八月の暑中に掛かりましたが、九月迄に約五十篇の寄稿文が届きました。長年の思いを一気に噴き出された方、克明に過去の記録を纏められて佐保会の歴史をも語って下さった方、今も活躍中で次代への熱い願望を述べられた方など皆心をこめて書かれ、年齢にかかわらず「女高師魂」を頂きました。

同時に何人もの方が、長年保ち続けていた当時の風景や人物や行事などの貴重な写真を貸して下さり、又卒業後も絵や書に研鑽を積まれ一家を成された方々が、今回

の為の自筆の作品を寄せて下さいました。

そのほかに、母校奈良女子大のご厚意により既刊の「奈良女子大学八十年史」の中の写真の転載も出来ることになりました。

編集委員会では、文字づくめになり勝ちな今回の冊子の紙面を少しでも読み易くしたいが、手軽な市販のカット画は使わないと始めから決めていましたので、この様に一枚一枚に心の籠った数々は誠に有難いことでした。

秋には記念誌発行に伴う費用への寄付を県下の全佐保会員にお願いしましたが、女高師卒、女子大卒の別なく協力して下さい下さる方々のおかげで漸次目安の額に近づきました。

この様に大勢の方々の物心両面のご協力を励みに、私ども編集委員は二〇〇〇年度中の発行をめざし、型通りに寄稿原稿の確認、読み合わせをしながら、先ず冊子の題名を決めました。

「青丹よし」は母校の奈良の地そのもので、期せずして全員一致、即、決まりました。副題には一、二の案が出ましたが、女高師生が次代に希望をかけて語る言葉だと読み取って頂ければと願って「二

十一世紀への伝言」としました。

冊子の体裁については、大体B5判で一五〇頁位と想っていました。細かい詰め段階では印刷会社の社長にも来て貰い、何ボの字で何字詰何行何段組み、写真は何枚カラーは何枚等と決めました。地の用紙、表紙、見返しなどの色や質は、持参して貰った色見本帖や紙質見本帖を皆で繰ったり、社長の助言を聞いたりしながら最後は暖かい感じに纏りました。

文章については、テーマや長さや卒年次などに依って何篇かを列べたり振り分けたり見出しを考えたりと、あれこれしているうちにどんどん日が経ちました。どうしても十二月中には印刷に回したいと最後の追い込みになりましたが、ギリギリの暮の二十八日に予定どおり部厚い原稿を印刷会社に渡せました。

平成十三年、新年早々に試し刷りが出来たのを叩き台に、本刷りの形式が決まりました。一月のうちに初校、そのあと再校三校と進む間に、あの写真や絵がなるべく多く適所に納まるよう、委員が印刷会社に向いて、更にこまかい打ち合わせもしました。

こうして、「青丹よし」は、年度

内の三月に予定どおり発行されました。表紙の優しい桃色に合わせ発行日は桃の節句の三月三日です。

無事に絵が終り、この十ヶ月を振り返りますと、支部長の許でこまごました実働は私ども編集委員が受け持ちましたが、始めから終りまで何と大勢の佐保会員のご熱意に包まれていたかと、改めてその力、優しさを思い、これが「母校の伝統」なのだ実感しています。

尚「青丹よし」は三月中旬に国立国会図書館に納まりました。

付記 「青丹よし」に左記の誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

(誤) (正)

- 4ページ下段後4行目
若年の私も↓若年の私に
- 45ページ下段後13行目
念佛三昧 ↓写・佛三昧
- 58ページ上段後11行目
三月四日 ↓三日・四日
- 83ページ下段後5行目
九月に ↓九日に

女高師最後の卒業生

編集委員 秋里三和子 (S27文)

「青丹よし」の発行にあたり、女高師最後の卒業生として編集と執筆に関わらせていただいたことは、私自身の時代における位置の再認識に深く繫りました。自分の卒業が、旧学制と新学制との截然とした「線引き」そのものであったということの再認識は、それに重なって今の時代がはっきりと見えてくることでもありました。

今、大学は再び大きく変わろうとしていますし、変わらなければならぬ時が目前に迫っています。多様で困難な時代のニーズに応えるための改革は容易なものではないでしょうし、来たるべき学制の

「線引き」は、私の経験したそれ以上に大きな変化を女子大学にもたらすことでもありましょう。

しかし、時代が流れ学制が変わっても、一人一人の人間形成、あるいはその後の人生の歩みゆきを胚胎する、核ともいふべきものをそこで培った同窓のつながりは、一本の糸のように連なって変わらないものであろうと思います。その意味で「青丹よし」に寄せた女高師卒佐保会員からの伝言が、温故知新の一助になればうれしいことです。また同様の意味で、次の世代に向けて女子大卒の方々が、第二第三の伝言「青丹よし」を発行して下さることを強く願っています。

「青丹よし」会計報告

[I] 総収入	1,779,500円
[II] 支出	
印刷関係	1,330,350円
送 料	74,130円
事務費	247,220円
[III] 差 引	127,800円 (預金)

皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

平成13年8月1日

会計 大久保勝美・寺田 翠・大橋 節子

佐保婦人学級

平成13年度
佐保婦人学級
運営委員

秋里三和子 078-592-1464	寺田 翠 078-911-5364
大橋 節子 078-792-1440	瀬川 順子 078-361-1543
射延 瑞枝 0794-84-1998	田中 幸恵 0795-42-3821

- * 佐保会員以外の方のご入会も歓迎いたします。
 - * 年度途中でも入会できますので、運営委員までお申し込みください。
- 会費 年間 3000円 当日のみ参加 500円

平成13年度 第19回佐保婦人学級年間予定

月 日	内 容	会 場	時間・講師	備 考
H13 4. 18 (水)	開講「私の読んだ大江健三郎」	神戸市立勤労会館	13:00~15:00 秋里三和子氏	
5. 23 (水)	「須磨の文学と史跡をたずねて」	集合:10:30 山陽須磨浦公園駅	10:30~15:00 八木 静子氏	昼食代1000円
6. 13 (水)	書 道	神戸市立勤労会館	13:00~15:00 川口登美子氏	好きな言葉を色紙に 書いてみよう
7. 11 (水)	「あなたも俳句をご一緒に」	神戸市立勤労会館	13:00~15:00 古川起与子氏	
9. 19 (水)	手芸「小物作り」	神戸市立勤労会館	13:00~15:00 都築久美子氏	はさみ・のり
10. 17 (水)	料 理 「旬の食材を生かしたメニュー」	クリスタルタワー 4F 生活創造センター	11:00~14:00 生活創造センター専属講師	材料費1000円
11. 14 (水)	バスツアー「秋の大和路」	集合場所:三宮「東急イン」前 出発時間:午前9:00(予定)		薬師寺の絵画 紅葉の奈良を訪ねて
12. 12 (水)	美術鑑賞 特別展「ポンペイ遺跡」	神戸市立博物館	13:00~15:00 博物館学芸員 松林 宏典氏	
H14 2. 13 (水)	時事問題	神戸市立勤労会館	13:00~15:00 市民講師	
3. 13 (水)	閉講	神戸市立勤労会館	13:00~15:00 浅野 晶子氏	
4. 17 (水)	開講「女性の生き方」	神戸市立勤労会館	13:00~15:00 秋里三和子氏	
5. 15 (水)	新緑の中へ	布引ハーブ園	10:30~15:00 午前10時30分新神戸駅集合(雨天決行)	

たし
知ら
全容
定も
今後の
結構
も大
一日
い下
ちも
でお
保会
す。こ
料理、
んだ
料理、
です。こ
保会
でお友
ちもお
い下
一日
も大
結構
今後の
定も
全容
知ら
たし



この会も発足して十九年目になりました。「いつまでも健やかに美しく心豊かに生きたい」と言うのは、誰もが願っているところですが、そういう永遠のテーマを掲げて佐保会員を中心に会員相互の親睦を深めながら楽しい学習の場であるよう努力しています。先輩の方からは、尊い経験と年齢を越えたパワーを、後輩の方からは、若い息吹と情熱のパワーをうまく交流させ活動を展開し、講師には各分野でご活躍の方をお招きして最新の情報、話題性に富んだ内容で話をきいたり、書道、手芸、料理、バス旅行など年間十回の開講です。この会は社会還元の一つとして佐保会員以外の方にも開放しています。

寺田 翠 (S37文幼)

「佐保婦人学級」の報告

平成13年度 支部役員

役名	氏名	卒業年学部	住所
支部長	浅野 晶子	S 23 家	中央区
副支部長	秋里三和子 瀬川 順子 (若 草)	S 27 文 S 41 文 英	北 区 中央区
事務局	吉江 順子 大橋 節子 射延 瑞枝 藤井 勢子	S 35 文 社 S 41 文 英 S 42 家 被 S 48 家 食	宝塚市 須磨区 三木市 中央区
会計監査	内匠 慶子 藤岡 利子	S 18 保 S 38 家 被	明石市 尼崎市
本部理事	佐藤すなほ 浅野 晶子	S 19 家 S 23 家	尼崎市 中央区
本部評議員	秋里三和子 大久保勝美 光長紀美子 寺田 翠	S 27 文 S 31 文 国 S 34 理 生 S 37 文 幼	北 区 北 区 芦屋市 明石市
本部監査	瀬川 順子	S 41 文 英	中央区
佐保会学園理事	浅野 晶子	S 23 家	中央区
佐保会学園評議員	大田奈緒美	S 37 理 化	垂水区
大学婦人協会役員	岩城 尚子 樋口由美子	S 33 文 国 S 49 家 被	芦屋市 芦屋市

事務局便り

平成12年度事業報告
 ・第8回「若草」
 ・第18回佐保婦人学級
 ・5月28日 神戸ポートピアホテルで支部総会及び第8回「若草」定例会開催
 ・8月31日 地区リーダー会
 ・11月1日 第24号「支部だより」発行(東灘区担当)
 ・11月12日 「睦会」
 ・平成13年1月13日 新年会
 ・3月3日 二千年記念誌「青丹よし」発行
 平成13年度事業計画
 ・第9回「若草」
 ・第19回佐保婦人学級

事務局住所変更のお知らせ
 佐保会兵庫支部事務局の住所は平成13年11月より次のように変更されます。事務局へのご連絡は左記のようにお願ひします。
 ●事務局新住所●
 〒651-0001 神戸市北区北五葉3-6-3
 秋里三和子方
 佐保会兵庫支部
 ☎ FAX 078-592-1464

6月3日 神戸ポートピアホテルで支部総会及び第9回「若草」定例会開催
 8月25日 地区リーダー会
 11月1日 第25号「支部だより」発行(灘区担当)
 11月11日 「睦会」於「楽珍」
 平成14年1月12日 新年会

平成12年度会計報告並びに平成13年度会計予算

収入の部			支出の部			
費目	平成12年度決算	平成13年度予算	費目	平成12年度決算	平成13年度予算	
前年度繰越	1,627,318	1,836,336	本部会費	1,038,500	945,000	
会費	2,517,700	2,305,000	総会補助費	111,056	150,000	
内訳	本部会費	1,038,500	945,000	通信印刷費	182,315	290,000
	支部会費	1,479,200	1,360,000	交通費	51,890	75,000
預金利息	161	50	事業費	名簿印刷費	200,920	230,000
本部より補助	58,320	59,000		名簿送料	166,680	5,000
寄付	7,500	0		支部だより印刷費	200,000	200,000
合計	4,210,999	4,200,386		睦会補助	30,000	30,000
資産内訳 (H13. 3. 31現在)				若草補助	30,000	30,000
定額郵便貯金	1,250,000			佐保婦人学級補助	30,000	30,000
郵便貯金	28,590			リーダー会経費	40,502	60,000
為替	451,605			もより会補助	95,900	105,000
現金	106,141			慶弔費	74,950	80,000
計	1,836,336			事務費	121,950	130,000
(別途友愛貯金)			予備費	0	5,000	
定額郵便貯金	891,000		小計	2,374,663	2,365,000	
郵便貯金	6,865		次年度繰越	1,836,336	1,835,386	
現在高	897,865		合計	4,210,999	4,200,386	

灘区の魅力発見

六甲、摩耶の緑と浜風のかおる住みよい街

「六甲、摩耶の緑と浜風のかおる住みよい街」これは都会でありながら、海と山に囲まれ、美しい自然に恵まれた灘区のキャッチフレーズです。震災後運休していた摩耶ケーブルとロープウェイが今年3月に再開し、それにあわせて六甲摩耶スカイシャトルバスの通年運行も実現して、従来の東六甲を循環する六甲山上バスと共ますます手軽に、多彩な楽しみ方ができるようになりました。

★オテルド摩耶

震災以後休業していた国民宿舎摩耶ロッジが、花の庭に囲まれた南欧風のホテルとして七月十三日から営業を再開。本格的なイタリアンレストランや神戸の街並みを一望できるオープンジャグジーバス（あわぶる）も楽しめます。

帯を授けた寺で、俳句の寺として蕪村の碑などもあります。
☎〇七八一八六一二六八四

★六甲山牧場

一三六ヘクタールの広大な牧場に点在するサイロや赤い屋根のホニー舎は、スイスの山岳牧場そのもの。チーズ、バター、ソーセージ作りなどが体験できる「まきば夢工房」も本年七月十九日オープンしました。

★摩耶山天上寺

大化二年 六四六年インドの法道仙人が開いたという古刹。厄除け開運と海上安全の守り本尊である十一面観音と、安産と子育て女性の苦しみを救う女尊仏摩耶夫人尊を奉安。日本で最初に安産腹

〇二八〇

★六甲摩耶

スカイシャトルバス

ケーブルカーに合わせた、緑とえんじのツートンカラーがかわいらしいこのマイクロボスは、摩耶ロープウェイ「星の駅」と六甲ケーブル「六甲山上駅」間、約八キロを結んでいます。

季節、曜日により運行時間が変わるのをお問い合わせを！
☎〇七八一八六一二五二八〇

「星の駅」駅舎の二階、カフェ「マヤ・テラス」のオープンデッキからは、神戸の街並みと大阪湾が一望できます。「掏えそうなくらい星がきれい」なことからその名がついた掏星台はすぐとなりにある山遊びの疲れをいやす格好の場所です。 田辺 富子（S24理）



SOS 編集後記 2002

今まではただ一會員の立場です。そして来た私ですが、この度「支部だより」編集の責を負うこととなり、まずはこれまで深く考えもせず読みすことしていた既刊分を改めて読み直すことから始めました。いざ作る側に立つと読み方は全く違って来ます。そして驚きました。一号から二十四号まで実に味わい深い文章が光っていて伝統の重みのもつ力が心に沁みました。

そして実際に編集を始めてみて又新しい驚きがありました。集まった皆さんが自分から進んで次々と仕事を引き受けられる、時間を大切に使われる、仕事の手順が立ち現れる、共同作業とは何とすばらしいことでしょう。

二十一世紀最初の年に当たるところから、新世紀への展望をテーマとしてまとめてみました。が如何でしょうか。

連綿と受け継がれて来た大きな力を頂き有り難うございました。末筆ながら、原稿をお願いした皆様にはご多忙中を快くご協力いただき有り難うございました。

小島 敏子（S30理物）

灘地区編集委員

- 田辺 富子 多賀谷深雪 小島 敏子
- 笹原 順子 寺尾喜美子 山下 知子
- 小川 久子